

参考文献

- [1] 行場次朗, 箱田裕司編著, 『知性と感性の心理』, 福村出版, 2001
- [2] 長町三生, 『感性工学』, 海文堂, 1989
- [3] 長町三生, 『感性商品学』, 海文堂, 1993
- [4] 文部省科学研究費補助金重点領域研究平成 4~6 年度成果報告書, 「感性情報処理の情報学・心理学的研究」, 1995
- [5] 感性工学の枠組み, 日本学術会議材料工学研究連絡委員会感性工学小委員会, 1997
- [6] 感性評価 1, 感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究組織研究報告集, 1997
- [7] 感性評価 2, 感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究組織研究報告集, 1998
- [8] 感性評価 3, 感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究組織研究報告集, 1999
- [9] 感性評価 4, 感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究組織研究報告集, 2000
- [10] 感性評価 5, 感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究組織研究報告集, 2001
- [11] Yuzuru Tanaka: Meme Media for Re-editing and Redistributing Intellectual Assets and Their Application to Interactive Virtual Information Materialization. Proc. in Discovery Science 2002: pp.672-682, LNCS 2281, Springer, 2002
- [12] 辻三郎編, 『感性の科学』, サイエンス社, 1997
- [13] 土肥浩, 石塚満, 「WWW と連携する擬人化エージェントとの HAI」, 人工知能学会誌, Vol.17, No.6, pp.693-700, 2002
- [14] 大澤範高, 金尚泰, 「簡易型 3 次元プレゼンテーションシステム」, 日本バーチャルリアリティ学会第 8 回大会, pp.433-434, 2003
- [15] 石井裕, タンジブルメディアグループ 「タンジブル・ビッター情報の感触・情報の気配」, NTT 出版, 2000
- [16] 両角清隆, 「知的人工物のインターフェースデザインの課題: 操作環境の適切な"制約"を求めるためのデザインプロセス」, デザイン学研究特集号, Vol. 5 Num. 4 pp.24-27, 1998
- [17] 生田目美紀, デザインにおけるイメージ支援と理解支援に関する基礎的考察, 筑波大学修士課程芸術研究科デザイン専攻論文, 1991
- [18] 細谷多聞, 「多重実行機能の操作におけるメンタルモデルの修正」, デザイン学研究, Vol46 No.1, 1-10, 1999
- [19] 柿山浩一郎, 原田昭, 「鑑賞行動における操作要素と興味度の関係: 遠隔鑑賞ロボットによる鑑賞実験」, デザイン学研究, Vol. 50 Num. 4 pp.61-68, 2003
- [20] 朴信映, 坂田昌克, 原田昭, 「マウス操作ログを用いたコミュニケーションツールの開発」, デザイン学研究. 研究発表大会概要集 Vol. Num. 50 pp.124-125, 2003
- [21] ドナルド・A・ノーマン, 『誰のためのデザイン?』, 野島久雄訳, 新曜社認知科学選書, 1990

- [22] ドナルド・A・ノーマン, 『人を賢くする道具』, 佐伯胖監訳, 新曜社認知科学選書,1996
- [23] 山梨正明著, 『比喩と理解』 認知科学選書,
- [24] 水島恵一, 上杉喬編集, 『イメージの基礎心理学』, 誠信書房,1986
- [25] 佐伯胖 (監訳), 『認知科学の計算理論』, , 産業図書
- [26] 『大辞林 第二版』, 三省堂
- [27] ダン・スペルベル, 『表象は感染する:文化への自然主義的アプローチ』, 菅野盾樹訳, 新曜社, 2001
- [28] 原田昭, 「デザインにおける感性情報の取り込み」, 知能と情報 (日本知能情報フェジィ学会誌), Vol.16, No.5, 2004
- [29] 柳井, 「多変量解析」, 心理学辞典, 563, 平凡社, 1981
- [30] 宮田洋, 『生理心理学』, 朝倉書店, 1985
- [31] 金, 北島他, 「感性指向製品におけるメンタルモデル計測を用いたデザイン支援システム」, デザイン学研究, Vol. 44 Num. 6 pp.21-30, 1998
- [32] 堀浩一, 「発想支援システムの効果を議論するための一仮説」, 情報処理学会論文誌, 35, 10, 1998-2008, 1994
- [33] 野口尚孝, 「デザイン行為の特徴とそれに基づくデザイン発想支援の枠組み」, デザイン学研究, No.109, pp.61-68, 1995
- [34] 川喜多二郎, 『発想法』, 中公新書, 1967
- [35] 中山正和, 『発想の論理』, 中公新書, 1970
- [36] Matsuda. N., Namatame. M., Hyper Scaling in Image Research, Institute of Socio-Economic Planning Discussion Paper Series, No.604, 1994
- [37] Matsuda. N., Namatame. M., Measuring Hierachically Related Consumer's Images:CIImg's,BIImg's and PImg's of Cosmetics, Institute of Socio-Economic Planning Discussion Paper Series, No.619, 1995
- [38] Matsuda. N., Namatame. M., INTERACTIVE MEASUREMENT OF HIERACHICALLY RELATED CONSUMER'S IMAGES., BEHAVIORMETRIKA, VOL.22 NO.2,pp.129-143, 1995
- [39] 高橋敏 + イフカンパニー, 『TDKを巻きもどす』, 六耀社, 2001年
- [40] 渡部保史, 『情報デザイン入門』, 平凡社;新書, 2001年
- [41] 内田種臣, 『様相の論理』, 早稲田大学出版部, 1978年
- [42] 生田目美紀, 原田昭, 「VTR リモコンのインタフェース研究—誤解と混乱のメンタルモデル」, 日本デザイン学会研究発表大会概要集, Vol.81, 1990
- [43] 生田目美紀, 原田昭, 「VTR リモコンのインタフェース研究—誤解と混乱のメンタルモデル」, 日本デザイン学会研究発表大会概要集, Vol.87, 1991
- [44] Magnussen, M. : Videotelephony in Intervention with People with Speech and Language Disabilities. 12th Annual Conference, Technology and Persons with Disabilities,8, 1997
- [45] Sperling, G. : Future Prospects in Language and Communications for the Congenitally. In Deaf Children: Developmental Perspectives, Academic Press, 103-114, 1978
- [46] Kuroda, T., Sato, K., and Chihara, K. Development of S-Tel: Avatar-Type Hand Language Transmitting System (in Japanese). Journal of Virtual Reality Society in Japan, Vol. 3, No.2, 41-46., 1998
- [47] Virtual RadLab Web-Page (2003): <http://www.virat.nottingham.ac.uk>
- [48] Lave, J., and Wenger, E. Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation. Cambridge Uni-

- versity Press, 1991
- [49] Cole, M., and Engestrom, Y. A Cultural-Historical Approach to Distributed Cognition. In Salomon, G. (ed.): Distributed Cognitions: Psychological and Educational Considerations. Cambridge University Press, 1-46., 1993
- [50] Hammond, N., and Allinson, L. Travels around a Learning Support Environment: Rambling, Orientating or Touring? Proc. CHI 1988,269-273., 1988
- [51] Hudson, J. M., and Bruckman, A. Effects of CMC on Student Participation Patterns in a Foreign Language Learning Environment. Proc. CHI 2001,263-264., 2001
- [52] Sherman, L., et al. StoryKit: Tools for Children to Build Room-sized Interactive Experiences. Proc. CHI 2001, 197-198, 2001
- [53] 石黒教子, 「環境と切り結ぶ教育」, デザイン学研究特集号, Vol.10 No.4, pp.22-25, 2003
- [54] 浅野熙彦, 「行列・ベクトル入門」, 同友館,1985 年
- [55] 池田央, 「統計的方法 基礎」, 新曜社<認知科学選書>,1989 年
- [56] 芋阪良二, 中溝幸夫, 古賀一男編, 「眼球運動の実験心理学」, 名古屋大学出版会,1993 年
- [57] 太田信夫編, 「エピソード記憶論」, 誠信書房,1988 年
- [58] 小原二郎編集, 「デザイン計画の調査実験」, 株式会社鳳山社,1980 年
- [59] 加藤秀俊, 「整理学」, 中央公論社<中公新書>,1978 年
- [60] 加藤秀俊, 「取材学」, 中央公論社<中公新書>,1978 年
- [61] 河野哲也, レポート論文の書き方入門 (第 3 版)」, 慶應義塾大学出版会、,2003 年
- [62] 小嶋外弘, 「価格の心理」, ダイアモンド社,1988 年
- [63] 佐伯胖・佐々木正人編, 「アクティブ・マインド」, 東京大学出版会,1999 年
- [64] 佐々木正人, 「アフォーダンスー新しい認知の理論」, 岩波書店、岩波科学ライブラリー 12、,2002 年
- [65] 佐々木正人, 三島博之編, 「アフォーダンスと行為」, 金子書房,2001 年
- [66] 嶋田厚, 「デザインの哲学」, 講談社<学術文庫>,1978 年
- [67] ジャレッド・スプール他, 「Web サイトユーザビリティ入門」, 篠原稔和監訳、三田仲人訳,2002
- [68] ジュゼッペ・カリオーティ, 「イメージの現象学」, 鈴木邦夫訳, 白揚社,2001
- [69] 杉山和雄, 井上勝雄編, 「EXCEL による調査分析入門」, 海文堂出版,1997
- [70] スティーブ・クルーグ, 「ウェブユーザビリティの法則」, 中野恵美子訳, ソフトバンクパブリッシング株式会社,2001
- [71] 瀬在良男, 「記号論序説」, 駿河台出版社,1970
- [72] 高木廣文, 佐伯圭一郎, 中井里史共著, 「HALBAU によるデータ解析入門」, 現代数学社,1991 年
- [73] テリー・ウィノグラード編著, 「ソフトウェアの達人たち」, 瀧口範子訳, 株式会社ピアソン・エディケーション,2001
- [74] 刀根薫, 「ゲーム感覚意思決定法」, 日科技連,1989
- [75] 中島義明, 「映像の心理学」, サイエンス社,1999
- [76] 西岡文彦, 「図解発想法」, 洋泉社,1995
- [77] ピーター・ジョンソン, 「ヒューマンインタフェースの設計方法」, 佐藤啓一宮井均須永剛司原田昭訳, マグロウヒル出版,1994
- [78] ビクター・S・ジョンストン, 「人はなぜかんじるのか?」, 長谷川真理子訳, 日経 BP 社,2001
- [79] 菱谷晋介編著, 「イメージの世界」, ナカニシヤ出版,2001

- [80] 藤沢英昭,小笠原登志子,『造形とイメージの心理』,大日本図書,1979
- [81] ポール・G・ホーエル,『初頭統計学』,浅井晃村上正康共訳,培風館,1989
- [82] 星野匡,『企画の立て方』,日本経済新聞社,1992
- [83] マイケル・G・パチェロ,『ウェブ・アクセシビリティ』,ソシオメディア株式会社監訳,株式会社アスキー,2002
- [84] ヤコブ・ニールセン,マリー・タヒル共著,『ホームページ・ユーザビリティ』,風工舎訳,エムディーエヌコーポレーション,2002
- [85] 柳井晴夫高木廣文編著,『多変量解析ハンドブック』,現代数学社,1993
- [86] 山岡俊樹著,『ヒューマンデザインテクノロジー入門』,森北出版,2003
- [87] 陸正,『変わる消費者,変わる商品』,中央公論社,1994
- [88] 渡部昇一,『知的生活の方法』,講談社<現代新書>,1980
- [89] 浅野熙彦,『マーケティング・シュミレーション』,同友館,1990
- [90] 浅野容子,『第1章 熟達化』,『認知心理学5 学習と発達』,東京大学出版会,東京 p.24/25, 1996
- [91] 加藤隆,『[トピック1] 潜在学習:暗黙的な知識の獲得』,『認知心理学5 学習と発達』,東京大学出版会,東京 (p.118), 1996
- [92] Harada, Y.: PYA Web-Page. (2004) <http://ss4.idd.tamabi.ac.jp/haraday/yubimoji/>
- [93] Namatame, M. and Harada, A., 1997, Development of a Visual Database as a Design-support Tool., Proceedings of 2nd Asia Design Conference, no.22 pp701-706
- [94] Namatame, M. and Uemura, N., 2000, Web Site Design as an Electronic Magazine which Has Virtual Store. Annual Design Review of Japanese Society for the Science of Design, Vol.6 2000, pp.30-35
- [95] <http://www.handspeak.com/>
- [96] <http://www.deafblind.com/worldsig.html>
- [97] <http://commtechlab.msu.edu/sites/aslweb/browser.htm>